

佳作

# おばあちゃんのふき

福島県郡山市立赤木小学校二年 能登 みのり

わたしがようちえんの年長のとき、えんそくで、いしむしろぼくじょうに行きました。ハイキングをしたとき、わたしのなかよしだった友だちがすこしおくれてもどつてきました。手にいっぱいふきをもつていて、

「これ、ばあちゃんのおみやげにすんだ。ばあちゃんふきすきだから。」

と云つて、にこにこわらつていました。うちにかえつてわたしはおばあちゃんにそのことをはなし、

「わたしもふき食べてみたい。」  
と云いました。おばあちゃんは、

「じゃあ、かわむくの手つだつてくれるかい。」  
と云いました。わたしは、おばあちゃんと、だいたいごろのながしにならんで、ふきのかわをむきました。かわは、バナナのかわみたいにつるんとむけて、きれいなみどり色で、つるつるになりました。

おばあちゃんのつくつてくれたふきは、すこしにがかつたけど、おだしのあじがして、シャキシャキととてもおいしかったです。わたしは、一人でどんぶりのふきを食べてしまいました。おばあちゃんはにこにこわらつていました。春の間、なんかいも、おばあちゃんのふきを食べました。

きよ年の十二月、おばあちゃんがびょうきで入りました。わたしが、  
「春までには元気になつてね。またふきつくつてね。」

と云つと、おばあちゃんはいこりわらつて  
「おばあちゃんがんばるからね。」  
と云いました。でもおばあちゃんは、三月のはじめに、しんでしまいました。

春になり、おかあさんがふきをかつてきて、

「かわむき手つだつてね。」  
と云いました。わたしは、おかあさんとならんでふきのかわをむきました。おかあさんのふきは、おいしかったけど、おばあちゃんのふきには、かなわなかったです。そしてわたしはおばあちゃんのことをおもいました。これからもきつとふきを食べるたびにおばあちゃんのことを思い出すと思います。おとなになつたらわたしもおばあちゃんのように、おいしいふきをつくれるようになりたいです。

